

母親・父親の育児の交流に関する考察

鈴木 順子*

Consideration of Interactions Between Mothers and Fathers in Childcare

“Mom friends” are a form of social interaction among mothers, but in recent years, the term “papa friends” has also become more commonly heard. This paper aims to provide some insights into the significance of interactions between mothers and fathers regarding child-rearing by examining and comparing the current states of mommy and daddy friends.

As a result, many parents mentioned the need for friends who were also parents. The reasons for this are mostly the same for mommy and daddy friends, but it turns out that daddy friends tend to have the purpose of exchanging information, while mommy friends are friends who serve as someone to talk to.

I. 本研究の目的

ママ友とは、子どもを持つ親同士の付き合いの形態の一つであるが、近年、パパ友という言葉も聞かれるようになった。イクメンという言葉が世間に認知されているように、積極的に子育てに参加する父親もみられるようになってきている。

新型コロナウイルス感染（COVID-19）拡大時には、コロナ禍にて外出できない状況下において心強い存在は「ママ友」であった。現在の母親たちにとって「ママ友」は必要不可欠な存在だと考えられる。それに対して父親同士で交流をするパパ友という存在はどうであろうか。

ママ友の先行研究には、ママ友が「子どもを介した」間接的な関係をベースにしていることが関係を複雑化させているとの指摘¹⁾や、ママ友関係に関するイメージが多くの場合、否定的であり、ママ友関係構築に対する消極的態度に繋がることが指摘されている²⁾研究もみられる。また「ママ友」付き合いは子どものために気を遣って付き合い等の葛藤が生じやすいとの指摘もある³⁾。このように先行研究からはママ友関係の難しさが指摘

されている。またママ友のみの先行研究が多くみられる。

パパ友の先行研究は、父親の育児に関する研究は増えてきているが、「パパ友」に関する論文は友人グループへの参加により、不足しているサポートの補完を行うのではなく、既に生活環境が整った親同士が新たな人間関係を獲得している様相がみられたという⁴⁾研究等がみられるものの、論文数は少ない。

こうした先行研究がみられる中で、筆者は母親、父親共にそれぞれが実際に育児に関わる中でママ友やパパ友との交流を望んでいる人が多いと推測する。

本稿では母親と父親の育児の状況、ママ友とパパ友についての現状を考察し、ママ友とパパ友について比較検討することにより、母親や父親同士の育児の交流の意義に関する一助とすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 調査方法と対象者

愛知県T市の地域子育て支援センター（以下、「センター」という）に来所した母親158名と父親154名に直接質問紙を配付し、回収した。尚、配

* 大阪青山大学

布する際にはそれ以前に同じ質問紙に回答したかの有無について聴き、同一人物が複数回答のないように配慮した。また調査にあたっては「ママ友」「パパ友」を辞書^{5) 6) 7) 8)}に記されている「母親どうしの友人。子どもがいる女性同士の友人」「父親どうしの友人」と定義し、アンケートを実施した。

表3は選択肢の回答を集計し、表1, 2, 4については選択肢の回答を集計したものを多い順に羅列した。表5は項目別にまとめた。自由記述を分析した方法は同様なものをグループ化してまとめたものは表6, 7である。図1～6は選択肢の回答を集計、また図7, 8に関しては、選択肢の回答を集計したものを多い順にグラフで示した。

2. 調査期間

2023年7月と8月に4回調査を実施した。

- ① 7月29日(土) ② 7月30日(日)
③ 8月5日(土) ④ 8月6日(日)

3. 調査内容

紙面による父親と母親の同一の質問項目の内容は①基本的属性(回答者の年齢、家族構成、子どもの人数、子どもの年齢、就労形態)、②育児に関する事項(育児の困り事、育児への不安等、子育ての情報収集)、③パパ友に関する事項(パパ友の人数、パパ友との付き合い方、普段のパパ友

との交流方法、パパ友の必要性和その理由、パパ友の存在)、④地域住民との関わりである。

また父親のみの質問項目として「入手したい情報の内容」、母親のみの質問項目として「パートナー(父親)の育児への期待」を記した。

4. 倫理的配慮

調査対象者には、研究の目的について口頭、及び書面にて説明し、調査協力者の自由意思のもとでご協力頂いた。また調査から得られたデータは個人が特定されないよう無記名で統計処理を行うこと、学会への発表、論文執筆等の研究目的以外には使用しないこと、データの管理方法を伝えた上で研究協力への承認を得た。

Ⅲ. 調査結果

1. 育児の現状

(1) 基本的属性

回答者の年齢では母親、父親共に30歳代が最も多かった(図1参照)。家族構成に関しては、核家族家庭が母親、父親共に多い。子どもの人数は1人が最も多く、次いで2人が多かった(図2参照)。子どもの年齢は父親、母親共に0, 1歳児をもつ人が最も多くみられた。就労形態について、母親は専業主婦が最も多く62人、次いで産休・育児が39人、正規雇用が33人であった。父親は正規

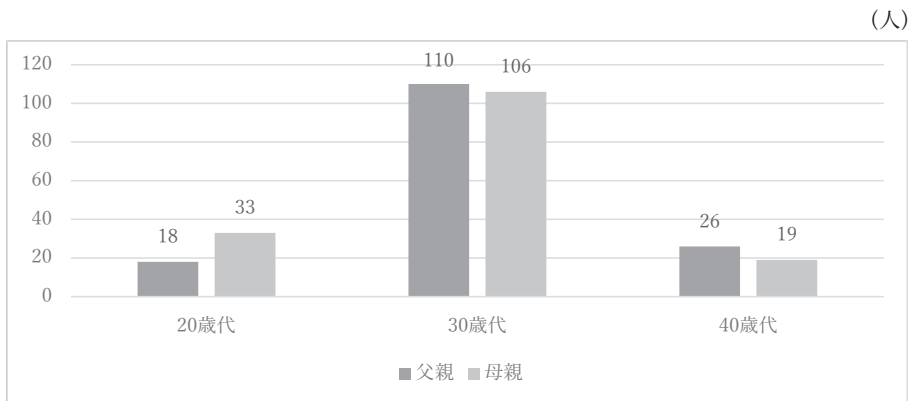


図1 回答者の年齢

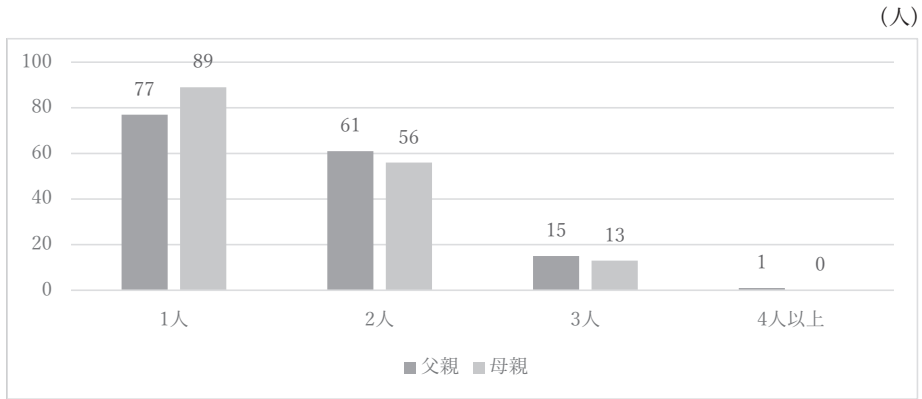


図2 回答者の子どもの人数

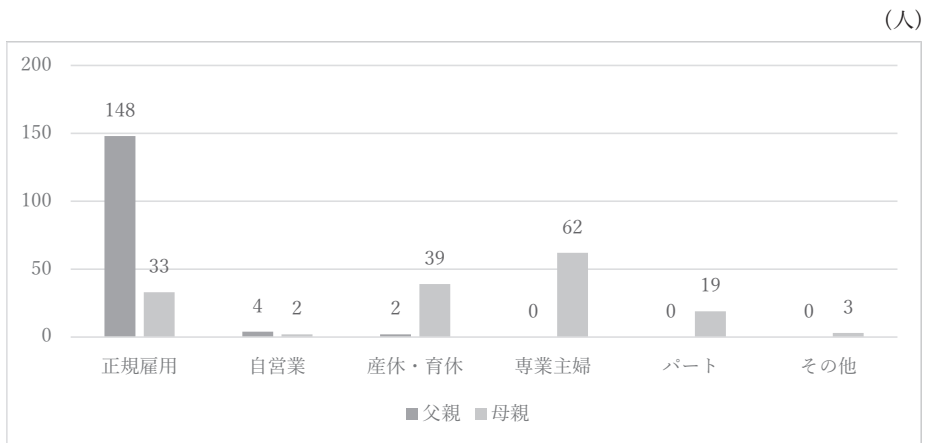


図3 回答者の就労形態

雇用が多く148人、自営業が4人、産休・育休は2人であった（図3参照）。

（2）育児に困っていること

育児に関して困っていることの有無については母親が「ない」は85人、「ある」は73人、父親が「ない」は75人、「ある」は76人、「無回答」が3人であった。

（3）不安や孤独について

「子育てに関して不安や孤独を感じる事があるか」について、母親は「ある」が66人、「ない」は92人、父親が「ある」が40人、「ない」が112人、

無回答が2人であった。子育てに関して不安や孤独を感じる人がどんな時に感じるかを尋ねた。大別すると、母親の場合は子どもの事、夫の事、その他に分けられた。子どもの事に関しては、「子どもの発達が遅れているのではないかの不安」「ミルクをあまり飲んでくれない時」「接し方、叱り方」等、夫の事については「夫が仕事で不在が多い時に孤独」「主人が夜勤で夜間の育児がワンオペになる時」等、その他については、「忙しいが誰にも頼ることができない時」「余裕が無くなった時」「家に子どもと2人である時」等が記されていた。

また「ない」と回答した人については、「大変

ではあるが、夫が協力的」という記載がみられた。父親は仕事の事、子どもの事、家族の事、その他に分けられた。父親の仕事の事については、「仕事と家庭の両立」「夜勤があり、夜の様子が分からない」等、子どもの事は、「休日に子どもを一人で見ている時」「しつけ、叱り方」「成長速度」「子どもを正しく育てられるか」「将来、いじめに合わないか」等、その他に関しては、「相談が難しい」「パパ友がいない」等が記されていた。

(4) パートナー（父親）の育児への期待について

妻（母親）のパートナー（父親）に対する育児への期待について尋ねた（表1参照）。「休日に子どもと遊ぶ」が最も多く、「子どもを風呂に入れたり等の世話」「様々な遊び場に連れて行ってほしい」「子どもと関わる時間を増やしてほしい」「平日に子どもと遊ぶ」等、子どもと実際に育児に関わることは期待をしているが、「父親同士の交流をしてほしい」「パパ友を作ってほしい」と思っている妻は少ないことがわかった。

(5) 子育ての情報収集について

子育ての情報の入手について、母親は「ネット」が131人、「ママ友」が74人、「当該センター」が24人等になっている。父親は「ネット」が107人、「パパ友」が29人、「入手していない」が22人等となっている。

表1 妻のパートナーの育児に望むこと

(複数回答)

休日に子どもと遊ぶ	122人
子どもを風呂に入れたり等の世話	106人
様々な遊び場に連れて行ってほしい	92人
子どもと関わる時間を増やしてほしい	81人
平日に子どもと遊ぶ	31人
父親同士の交流をしてほしい	14人
パパ友を作ってほしい	11人

表2 父親が入手したい情報の内容

(複数回答)

子どもの遊び場	101人
子どもとの関わりに関すること	63人
子どもの食事に関すること	39人
他の父親の育児状況について	35人
育児講座・親子遊びの参加募集について	24人
育児について学べる本の紹介	21人
その他	7人

(6) 入手したい情報の内容

父親にどのような育児の情報を入手したいのかを尋ねた（表2参照）。「子どもの遊び場」「子どもとの関わりに関すること」の回答を選択した人が多いが、「他の父親の育児状況について」の選択も多くみられた。

2. ママ友・パパ友に関する事項

(1) ママ友・パパ友の人数

母親はママ友が4人以上いる人が多かった。父親は「パパ友がいない」人が多いが、5人以上いる人もみられる（表3参照）。

(2) 普段のママ友・パパ友との交流方法

ママ友、パパ友同士の交流方法として、「メールやチャット、ラインをする」「対面で話す」がほぼ多数を占めている（表4参照）。その中で母

表3 ママ友・パパ友の人数

人数	母親	父親
0人(いない)	24人	49人
1人	11人	13人
2人	21人	25人
3人	21人	18人
4人	37人	27人
5人以上	44人	22人

表4 ママ友・パパ友との交流方法
(複数回答)

	母親	父親
メールやチャット、ラインをする	111人	36人
対面で話す	106人	80人
電話で話す	18人	3人
オンラインで話す	12人	2人
その他	4人	1人
無回答	15人	0人

親は「メールやチャット、ラインをする」、父親は「対面」が最も多い。

ママ友、パパ友にその回答を選んだ理由について尋ねた。ママ友の対面に関しては、「細かいところまで話せる」「対面の方が話に集中できる」「表情がわかり、やりとりしやすい」「子ども同士で遊ばせられるから」「お互いの子どもの様子を直接見ながら悩み等を相談できるから」等、オンラインに関しては、「いつでも自由に話せる」「時間を気にしなくてよい」等が記されていた。

パパ友の対面に関しては、「自然な流れで話せるから」「コミュニケーションがとりやすい」「話しやすいから」「子どもと一緒に会えるから」等、

オンラインに関しては、「時間の有効化」「気軽に時間がとりやすい」「家が遠いから」等が記されていた。

(3) ママ友とパパ友との付き合い方

ママ友とパパ友との付き合い方では付き合いが多い項目と少ない項目とに分けて記載した(表5参照)。多い項目に関しては母親、父親共に各自宅で会うことや子どもと親同士で遊びに出掛ける事柄が挙げられている。少ない項目には、母親に関してはママ友には子どもを預けることは少なく、父親はセンターでの父親との関わりは少ない結果がみられた。

また「ママ友に子どもを預けたり、園や習い事の送迎をお願いしているか」について尋ねた回答に関しては、「している」が22人、「していない」が134人、「無回答」が2人であった。「している」と選択した理由については、「気軽にお願いできる」は6人、「お互いに助け合っている」が15人等であった。「していない」を選択した理由(複数回答)については、「必要がない」が80人、「気兼ねをする」が45人、「安心できない」が14人であった。また「そこまで頼むのはさすがに申し訳ない」等も記載されていた。

表5 ママ友・パパ友との付き合い方

(複数回答)

付き合いが多い項目	
母親	父親
<ul style="list-style-type: none"> ・各自宅で会う63人 ・子どもとママ同士で遊びに出掛ける55人 ・ママ同士で出掛ける35人 ・公園で会う33人 ・子育て支援センターで会う30人 ・普段から家族ぐるみで遊びに出掛ける24人 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自宅で会う35人 ・普段から家族ぐるみで遊びに出掛ける28人 ・パパ同士で出掛ける16人 ・子どもとパパ同士で遊びに出掛ける12人 ・公園で会う10人
付き合いが少ない項目	
母親	父親
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを預けたり預かる7人 ・何かあった時、非常時に子どもを預ける等の助けを求める8人 	<ul style="list-style-type: none"> ・園や学校で話す7人 ・子育て支援センターで会う1人

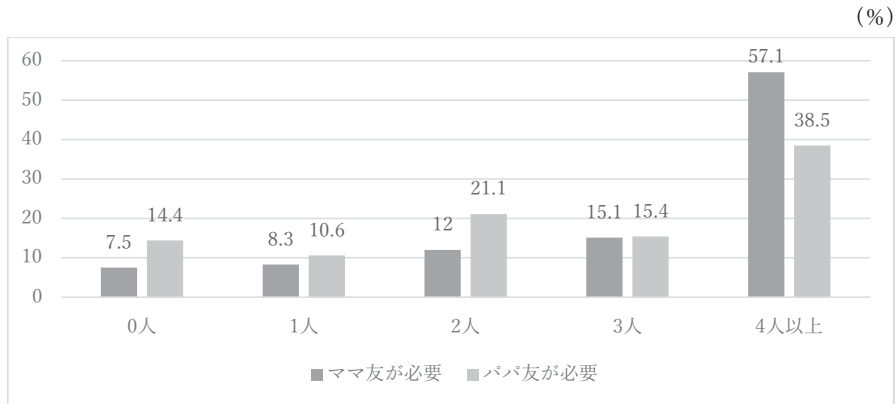


図4 ママ友・パパ友の人数とママ友・パパ友の必要性

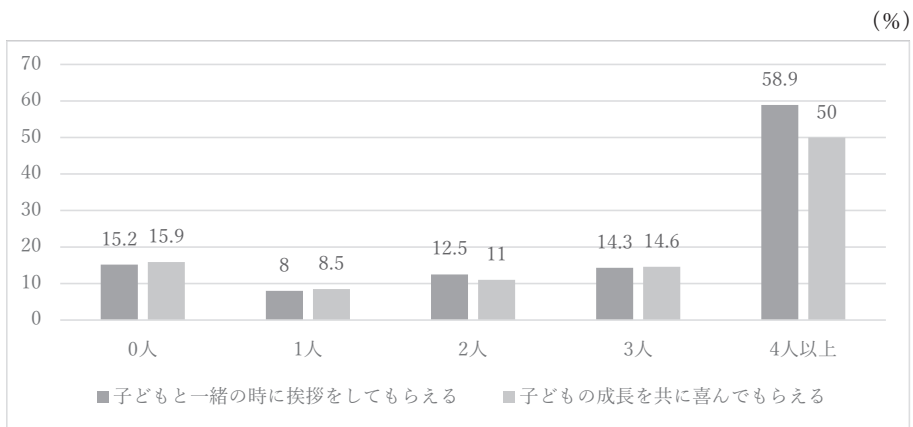


図5 ママ友の人数と地域の住民との関わり

(4) ママ友・パパ友の必要性

「ママ友・パパ友は必要だと思うか」について尋ねた。「必要」と回答したママ友は133人、パパ友は104人、「必要でない」と回答したママ友は17人、パパ友は26人、「どちらでもない」と回答したママ友は8人、パパ友は24人であった。またママ友・パパ友の人数とママ友・パパ友の必要性をみたところ、母親、父親共にママ友とパパ友が4人以上の場合はママ友やパパ友が必要な人が多い結果もみられた(図4参照)。

(5) ママ友・パパ友の人数と地域の住民との関わり

ママ友・パパ友の人数と地域住民との関わりをみると、4人以上のママ友・パパ友がいる人は地域の人達と関わりたいと思っている人が特に多いことがわかる(図5、6参照)。つまり、社交的な人、人との付き合いが苦手ではない人が多いという特徴があると考えられる。

(6) ママ友・パパ友が必要の理由について

ママ友、パパ共を必要とする理由については、母親は「相談」が最も多く、次いで「話をすることの利点」であった。その次に「情報交換」「孤

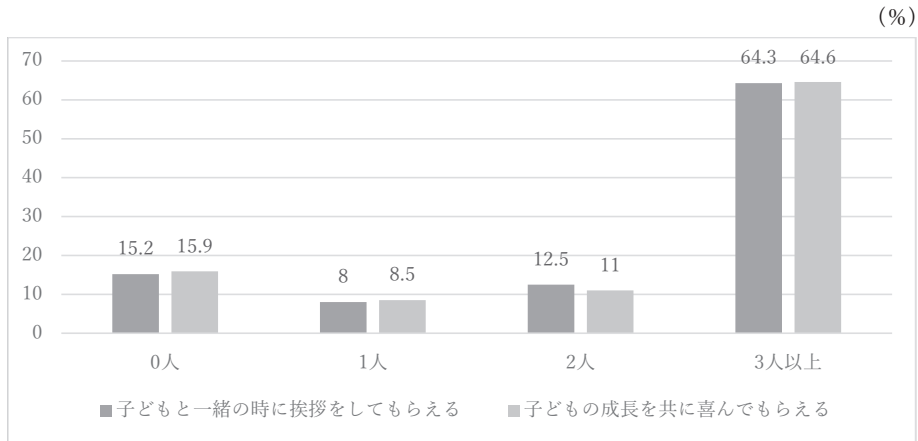


図6 パパ友の人数と地域の住民との関わり

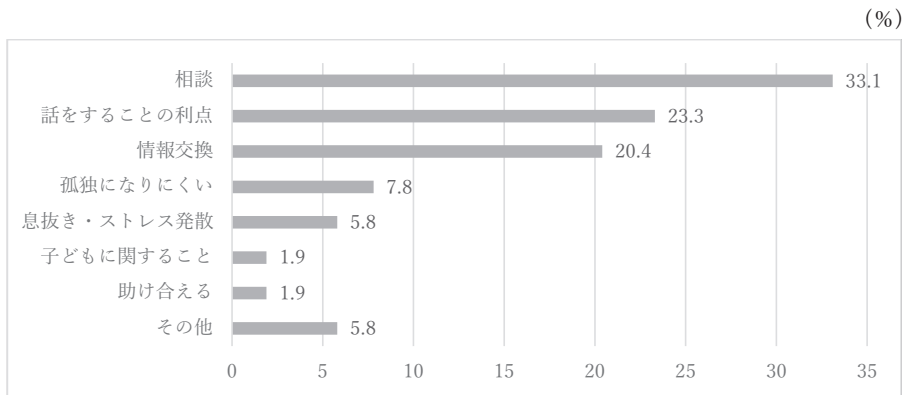


図7 ママ友の必要性の理由

独になりにくい」「息抜き・ストレス発散」等が記載されていた（図7参照）。

父親に関しては、「情報交換」が最も多く、次いで「相談」「話をすることの利点」「息抜き・ストレスの発散」となっている（図8参照）。母親に対して父親は「情報交換」が最も多い。ママ友・パパ友が必要である具体的な理由を表6、表7に示した。

ママ友とパパ友が必要でないと回答した理由については、母親は「気が合えばよいが、合わない大変」「関わるのが面倒」「気を遣うから」等が記されていた。「どちらでもない」については、「いれば色々とは話ができるが、相手によっては煩

わしいこともある」等の記載がみられた。

父親が必要でないと回答した理由については、「相談はない」「ネットで検索したら大体の情報は得られる」「人付き合いが苦手」「わずらわしい」等、「どちらでもない」と回答した人は「助かることもあるが、特に考えたことはない」等であった。

（7）ママ友とパパ友の存在

「あなたにとってママ友はどんな存在か」を尋ねた。「子育て仲間」「戦友」「同志」「同じ悩みを共有できる大切な人」「ストレス解消できる存在」「安心できる存在」「心の支え」「なくてはならな

(%)

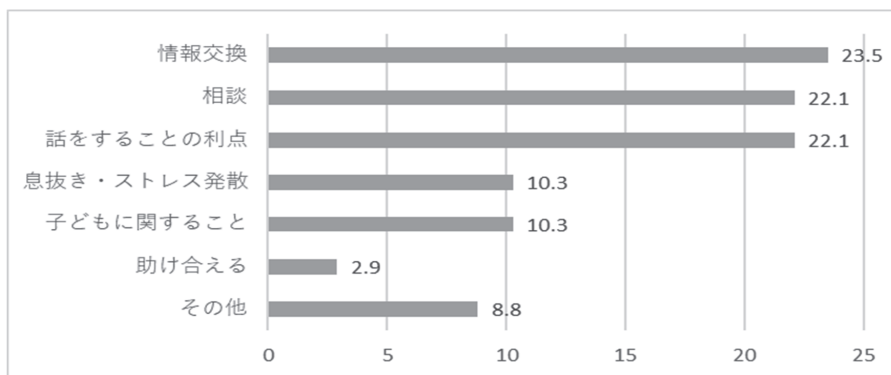


図 8 パパ友の必要性の理由

表 6 ママ友が必要と回答した具体的な理由

(自由記述)

<p><u>相 談</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児で困っていることを相談できる。 ・一人で解決できない時、アドバイスや話を聞いてくれる。 ・悩みを共感し合える。 ・話すだけでもリフレッシュ。 ・同士がいると思えるので悩みが晴れるから。 ・夫ではわからないことも分かり合える。 ・気持ちを分かち合いストレスが発散できるから。 ・自分だけが悩んでいないことがわかる。
<p><u>話をすることの利点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すだけで元気をもらえる。 ・夫ではわからないことも分かり合える。 ・話し相手が必要。話すだけでもリフレッシュ。
<p><u>情報交換</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットでは拾いきれない地域のイベントや園の事など細かい情報が得られそう。 ・園や小学校の情報を教えてもらえる。
<p><u>孤独になりにくい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安だから。 ・ママ友と会うことで社会との繋がりを感じられたから。
<p><u>上記以外の理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを分かち合ってストレスが発散できるから。 ・息抜きになる。 ・家族以外の存在も大切と実感できる場面がたくさんある。

表7 パパ友が必要と回答した具体的な理由

(自由記述)

<p><u>情報交換</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換できる。 ・他の家庭での育児の様子が分かる。 ・どのように子育てしているか参考になる。 ・助けになる情報を入手できる。 ・ネットでは拾いきれない地域のイベントや園の事など細かい情報が得られる。 ・園や小学校の情報を教えてもらえるなど。
<p><u>相談</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・困り事を相談できる。 ・相談相手 ・子育ての悩みを共有できる。
<p><u>話をする事の利点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と話す事で気持ちに整理ができる。 ・気持ちが分かり合える。 ・パパ同士にしかわからないことがある。 ・共通の話ができる。 ・同じような悩みや楽しみを話し合える。
<p><u>上記以外の理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愚痴を話しやすい。 ・息抜きができる相手。 ・ストレスを緩和できる。 ・一緒に遊びに行ける。 ・困った時の助けになる。

い存在」「頼りになる」「相談相手」等の回答がみられた。

父親に同様の質問をしたところ、「戦友」「普通の友人だが会話が子ども中心」「良き相談相手」「愚痴を聞いてくれる相手」「頼りになる」「息抜きができる存在」「同じ環境にいる仲間」「遊び相手」「大変さを理解できる」等が記されていた。

母親と一緒に成長していく、悩みを共有できる戦友、同志、仲間という記述が多くみられ、父親は相談相手、子どもを介しての友人、遊び仲間という記述が多くみられた。

IV. 考察

本稿の回答者である父親と母親の共通している項目については、核家族世帯で1人目の子どもであり、子どもの年齢は0,1歳児が最も多いことがあげられた。異なる点は就労形態であり、母親

は専業主婦と産休・育休、父親は正規雇用で働いている人が多かった。

育児に関して困っていることの有無に関しては母親、父親共にほぼ同じであるが、父親は「ある」との回答がやや多くみられる事に対して、困り事を相談できる人が必要であると考えられる。

母親は父親に比べると不安や孤独を感じている人が多い。父親は目の前の子どもの事、子どもの将来についても考えている様子がうかがえ、母親に関しては現状において孤独や不安を抱えていた。子どもの年齢が低く、初めての育児をしている親が多いことも孤独や不安を抱える一因ではないかと考えられる。

特に母親は専業主婦や産休・育休の人が多くことから、子どもと二人きりでいる際に孤独を感じている。反対に孤独を感じない母親は夫が協力的な場合、つまり夫が実動的に育児に携わっている

人であるといえる。実際、母親がパートナーに望む事として「休日に子どもと遊ぶ」「子どもを風呂に入れたり等の世話」など、実際に子どもと関わる事に関する数値は高いが、「父親同士の交流をしてほしい」「パパ友を作ってほしい」の数値は低い。しかし、父親はパパ友を必要としている人が多いことから父親同士の交流が必要なことがうかがえる。父親が子育てに不安や孤独を感じる時は相談する人がいない、パパ友がいないこともあげられている。

父親が入手したい情報の内容として、「子どもの遊び場」や「子どもとの関わりに関すること」の他に、「他の父親の育児状況について」等の情報の入手を希望している。

この中で「子どもの遊び場」を知りたいという数値が最も大きい。これについてはネットで調べることが可能であるが、「子どもとの関わりに関すること」「他の父親の育児状況について」は現在の実情をパパ友と話す事が有意義であると考えられる。パパ友同士の交流は対面が多い現状からも対面の必要性を感じる結果であった。また父親や母親も実際に対面で交流し合う中で他の子どもの様子や他の親の子どもへの関わり方をみることで親としての育自の成長に繋がっているのではないかと考えられる。

ママ友、パパ友との付き合い方は、各自宅で会うが最も多いが、子どもとパパ、ママ同士で遊びに出掛けたり、パパ、ママ同士で出掛ける、家族ぐるみで遊びに出掛けるケースが多いことが共通してみられる。付き合いの少ない項目の特徴として、ママ友同士で子どもを預けたり、預かる手段は、あまり使われていない。その理由として、「気兼ねをする」「そこまで頼むのはさすがに申し訳ない」と記載があるように、ママ友との関わり方にも使い分けをしている様子がうかがえる。パートナーとは、違う意味での関わり方をママ友に望んでいることが理解できた。また母親はセンターでママ友と交流する人は多いが、父親はセンターでのパパ友同士の関わりは少ない結果がみられ

た。母親はセンターをママ友との交流作りの一つとして活用していることがわかる。

母親、父親共にママ友、パパ友が必要だと回答している人が多い。必要性の理由としてはママ友、パパ友にほぼ共通しているが、パパ友の方がやや情報交換の目的が多く、ママ友は相談や話し相手として付き合っていることがわかった。

ママ友・パパ友の存在について、ママ友は一緒に成長していく、悩みを共有できる戦友、同志、仲間という記述が多くみられ、父親は相談相手、子どもを介しての友人や遊び仲間という記述が多くみられた。また父親も母親同様に「戦友」「大変さを理解できる」という記述がみられることから、同じ悩みをもつ同じ立場の親同士で分かり合える気持ちを理解してくれる友人を望んでいるのではないかと考えられる。

ママ友・パパ友を必要としていない理由について、母親は「気が合えばよいが、合わない大変」「気を遣う」、父親は「ネットで検索したら大体の情報は得られる」「わざわざ」と回答している。またママ友・パパ友が4人以上いる人は地域の人たちと関わりたいと思っている人が多い結果もみられた。つまり、人との付き合いが苦手ではない人が多いと考えられる。今後、人との付き合いが苦手な人に対して、どのように支援をしていくかも課題である。

対面での話が有効と感じていることや、母親がママ友を必要としているだけでなく、父親もパパ友を必要としている結果もみられることから、父親も母親同様にパパ友との交流から得るものがあり、父親は育児に関して子どもとの関わりという実動的な事を行うだけでなく、父親同士が対面で話す事の大切さが理解できた。

父親も母親と同様に育児に対して様々な思いを抱えている。パパ友やママ友と交流することは、父親も母親も夫婦以外で同じ立場の親同士で話せることに意義があるように考えられる。

【注】

- 1) 宮木由貴子「『ママ友』の友人関係と通信メディアの役割—ケータイ・メール・インターネットが展開する新しい関係」Life design report=ライフデザインレポート (159), 東京：第一生命経済研究所, 2004年, 4-15
- 2) 木田千晶・鈴木裕子「母親間の人間関係が構築されるプロセス」子育て研究10(0), 日本子育て学会, 2020年, 15-28
- 3) 實川慎子・砂上史子「子育て期の母親同士の人間関係の特質—母親の自己における『個としての自分』と『親役割を担う自分』に着目して」日本保育学会第62回大会発表論文集, 2009年, 327
- 4) 塚常健太・大戸朋子「父親・母親同士の友人グループへの参加条件」社会情報学9(2), 一般社団法人社会情報学会, 2021年, 1-18
- 5) 松村明・三省堂編修所（編）「大辞林第4版」株式会社三省堂, 2019年, 2600
- 6) 見坊豪紀他「三省堂国語辞典第八版」株式会社三省堂, 2022年, 1460
- 7) 三省堂編修所（編）「見やすいカタカナ新語辞典第5版」株式会社三省堂, 2023年, 790
- 8) 三省堂編修所（編）「見やすいカタカナ新語辞典第5版」株式会社三省堂, 2023年, 597